

ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ) <https://jcj.gr.jp>
〒101-0061 千代田区神田三崎町3-10-15 富士ビル501号
電話 03-6272-9781 FAX 03-6272-9782
メール office@jcj.gr.jp ブログ <http://jcj-daily.seesaa.net/>
年間購読料4,000円(送料込み) 振替・00190-2-76501



THE JOURNALIST

2023.10.25



J C J 賞受賞者の皆さん

旧統一教会に 法人解散命令請求

世論が追い詰めた 問題はこれからだ

文部科学省は10月13日、東京地裁に対し、宗教法人の世界平和統一家庭連合(旧統一協会)への「解散命令を請求した。宗教法人としての解散を求め、非訟事件手続法で、裁判所が非



解散命令請求を報じる各紙

統一教会問題 幕引きさせざるな

鈴木エイト氏、金平氏が対談

「信者」勧誘や、多額の献金強要、霊感商法による物品販売、強制的な結婚、養子縁組などをどうやめさせられるかが問題で、まず、法人財産をどう保全し被害者に還元させるかが大きな課題だ。これについては「財産凍結の特例法が必要」との提案も出てきており、

「選挙」集会動員」などの癒着関係や「政策持ち込み」「勝共思想」や「家長制的支配論」の持ち込みについて、検証し、明らかにさせていくことも求められる。自民党内からは「幕引きに向けた大きな動き」と評価する声と「選挙の不安材料が一つ取り除かれた」という声がある(読売)とのことで、「これで幕引きなどは許されない。岸田内閣の本気度と指導力が改めて問われる」(朝日社説)ことにもなった。

後ろにいた政治家安倍さんが正面に出てきたこと、協会との関係を隠さなくてもいい存在になったことは、私にとっても衝撃だった。信者2世や、山上が激しい怒りと絶望を感じたのは不思議ではない」と述べた。

J C Jも加わって組織している「NHKとメディアの今を考える会」は10月7日、J C J大賞を受賞したジャーナリスト鈴木エイト氏と、TBS「報道特集」の金平茂紀さんの対談「統一教会への解散命令請求を問う」の岸田政権は衆院解散へのカードとするのか」を開いた。政府による宗教法人としての解散命令が予定されていると言われている中、報道がひとつより「低

容疑者の取材を通じて明らかになったこと、法人解散命令が出たあとの教会がどうなるか、報道の問題点、課題などについて詳しく語った。エイトさんによると、旧統一教会は、自民党と

「市民と核兵器」ウクライナ危機の中での対話」で、戦禍の地で核兵器の問題に迫った岡田亨さんの各氏が登壇し、それぞれのテーマや取材に懸けた思いを語った。

第66回 J C J 賞贈賞式 多様な課題に取材で迫る

日本ジャーナリスト会議は9月23日、東京の全水道会館で第66回 J C J 賞の贈賞式を開いた。大賞に選ばれたのは安倍晋三元首相の銃撃死からわずか3カ月足らずで緊急出版された『自民党の統一教会汚染 追跡3000日』と続編『自民党の統一教会汚染2 山上徹也からの伝言』(小学館)を著したジャーナリスト鈴木エイトさん。鈴木さんは2002年、統一教会信者の偽装勧誘現場に遭遇し、被害者救出活動に関わって以

来、20年にわたって統一教会問題取材をフリーの立場で続けてきた。『追跡3000日』では身の危険を顧みない取材と綿密な調査でつかんだ自民党の統一教会汚染の実態を暴き、『山上徹也からの伝言』では、ツイッターでの接点を明かすとともに、統一教会の被害者でもある彼の行為と背景を多様な視点でとらえようと試みた。また、積み重ねた取材の成果を各メディアにも惜しみなく公開し、ジャーナリズム全体の自民党の統

った青山浩平さんはビデオメッセージを寄せた。大賞の鈴木エイトさんもこの日、大学での特別講義のため、会場でビデオメッセージが流されたが、講義を終えて贈賞式に駆けつけ、会場の拍手と笑顔に迎えられる受賞の喜びと、統一教会問題についてスピーチした。

命ぬ水 映し出された沖縄の50年 「調査」にも地位協定の壁

琉球朝日放送 島袋 夏子さん



2016年、沖縄県企業局が川や地下水の有害な化学物質・PFAS（有機フッ素化合物）検出公表をきっかけに、共同ディレクターのイギリス人ジャーナリスト・ジョン・ミッチェルさんと私、又吉謙カメラマンの三人で取材しました。

沖縄県民が飲む「水」の水源は、地下水を蓄える13kmにも及ぶ石灰岩質の帯水層です。その水が米軍基地のPFASによって汚染された。このことからタイトルを「命ぬ水（命の水）としました。私たちの先祖代々の命を守ってきた帯水層は沖縄戦の時に県民が命を守るために逃げ込んだガマに繋がっています。沖縄戦の時、17歳で「鉄血勤皇隊」だった私の父の話にもガマの話が沢山出てきました。ガマの中でどうして生きて行けたのかという奥に水があったからです。

染で社会インフラが大きくなり変わりました。沖縄の環境史、公書史に刻まれる事件だと思っています。共同ディレクターのジョン・ミッチェルさんと私は土壌汚染取材から始まった13年間の仲間です。ジョンさんが米の「情報自由法」で資料を入手し、内部告発者から文書を取ってくる。沖縄の記者の私は現場取材や裏取りをし、歴史的な文脈から資料を読み解く。役割分担を続けてきました。私たちの前には地位協定の壁があり、立ち入り調査ができずにいます。この問題の根本的解決には多くの障害があります。琉球朝日放送は番組をYouTubeで全部公開し、英語版で国際社会に訴えています。皆さんとつながり解決に取り組みたいと思います。

市民と核兵器 ウクライナ 危機の中の対話

現実から目をそらさず

NHK・Eテレ 岡田 亨さん



戦争中の核大国のトップが核の使用をほのめかす、これは歴史上初めてのことではないか。人類が作り上げてきた危ういシステムの矛盾の最先端にウクライナが立たされていると感じました。

番組は日本で育ったボグダン・パルホメンコさんという1人のウクライナ人を軸に、いまウクライナの人たちが核の脅威にどう向きあっているのかを描いています。番組は、ボグダンさんには、ボグダンさんなだけでは、今年の始めからディスカッションをしてきましたが、全く先が見通せない企画でした。

ボグダンさんの祖父ウラジミールさんは、ウクライナが核の放棄を決めた時の教育大臣で科学者です。ロシアの侵攻後も

「ウクライナが核兵器を手放したのは正しい選択だった」と語っています。これに対してボグダンさんは、「あの時、核兵器を手放さなかったらロシアの侵攻はなかったのではないかと、手放すべきではなかった」と考えており、実際に口にもして

「ルポ死亡退院」は、八王子にある精神科病院の虐待の実態、そして病院がいかに必要悪として成立し、社会が見て見ぬふりをしているのかをテーマに制作しました。

2本目は2021年放送の「下キメント」精神科病院×新型コロナウイルス。新型コロナウイルス感染症拡大から、都立松沢病院の新型コロナウイルス専用病棟に1年間密着しました。クラスターが起きた東京中の精神科病院から患者が送られてくる中、精神病差別とも言える合併症治療の貧困、東京にもレベルが低いと言わざるを得ない病院が多く存在すること、その中で当事者の方が見えなくなっていました。

原発事故、新型コロナウイルスの取材を通して見えてきた精神科病院を取り巻く環境、取材の中で浮かび

リレー時評



JCJ代表委員 白垣 昭男

岸田文雄首相は9月20日（日本時間）の国連総会演説で、「人間の尊厳こそが2023年以降の国際目標を今後検討する上でも、国際社会の未来を照らす中核的理念となるべきだ」と指摘、「人間の尊厳を強化するために協調する国連を実現したい」と「人間の尊厳」を前面に打ち出して力説した。

ではどうだ。「人間の尊厳」など頭にないようにみえる差別発言を繰り返してきた自民党の杉田水

ヨゴリやアイヌの民族衣装のコスプレおぼさんまで登場。完全に品格に問題があります」などと追及、昨年12月になっ

議員を総務政務官として任命。野党などは杉田議員のブログ発言を国会で追及、昨年12月になっ

杉田議員はこの「発言」を撤回、謝罪した。岸田首相はその後、彼女を更迭したが、杉田発言が「人権侵犯」と認定された後の9月29日に自民党は環境部長代理の要

職に起用した。岸田が総裁として反対した形跡はない。岸田が国連演説して10日もたっていないから、杉田発言の人権侵犯ニュースが広まった20日、茂木敏充自民党幹事長は記者会見で記者からの質問に「残念だと思

稿で、性的少数者について「彼女らは子供をつくらない、つまり『生産性』がない」と書いた。20年には自民党の部

会で、性暴力被害を巡って「女性はいくらでも嘘をつけますから」と。ジャーナリストの伊藤詩織

さんの中傷する投稿に「いいね」を押したことに関して賠償を命じられる判決も受けている。こうした「前歴」があるにも関わらず、自民党が杉田議員を重用するのは「愛国保守をアピールする杉田氏に好意的な保守層を刺激すれば、選

「人間の尊厳」は口先だけなのか

杉田議員は2016年、国連女性差別撤廃委員会に日本から参加した人たちについて「チマチ

脈衆議院議員を何度も重用する不可解な人事を重

ログに差別的な内容を投稿した。これについて札幌法務局は、当事者らが

「人権侵犯だ」と訴えていたことを受けて9月7日付で「人権侵犯」と認定、救済を申し立てた当

て、杉田議員はこの「発言」を撤回、謝罪した。岸田首相はその後、彼女を更迭したが、杉田発言が「人権侵犯」と認定された後の9月29日に自民党は環境部長代理の要

職に起用した。岸田が総裁として反対した形跡はない。岸田が国連演説して10日もたっていないから、杉田発言の人権侵犯ニュースが広まった20日、茂木敏充自民党幹事長は記者会見で記者からの質問に「残念だと思

稿で、性的少数者について「彼女らは子供をつくらない、つまり『生産性』がない」と書いた。20年には自民党の部

会で、性暴力被害を巡って「女性はいくらでも嘘をつけますから」と。ジャーナリストの伊藤詩織さんの中傷する投稿に「いいね」を押したことに関して賠償を命じられる判決も受けている。こうした「前歴」があるにも関わらず、自民党が杉田議員を重用するのは「愛国保守をアピールする杉田氏に好意的な保守層を刺激すれば、選

いと思うっております。

ルポ死亡退院 精神医療・闇の実態

NHK・Eテレ 青山 浩平さん



「ルポ死亡退院」は、八王子にある精神科病院の虐待の実態、そして病院がいかに必要悪として成立し、社会が見て見ぬふりをしているのかをテーマに制作しました。

2本目は2021年放送の「下キメント」精神科病院×新型コロナウイルス。新型コロナウイルス感染症拡大から、都立松沢病院の新型コロナウイルス専用病棟に1年間密着しました。クラスターが起きた東京中の精神科病院から患者が送られてくる中、精神病差別とも言える合併症治療の貧困、東京にもレベルが低いと言わざるを得ない病院が多く存在すること、その中で当事者の方が見えなくなっていました。

原発事故、新型コロナウイルスの取材を通して見えてきた精神科病院を取り巻く環境、取材の中で浮かび

「長すぎた入院」は、東日本大震災の原発事故後、原発近くの5つの精神科病院の1000人近い入院患者達の実態に迫った番組です。30年を超す長期入院の人が多く存在し、ほとんどが入院治療の必要なしと診断されていた。

日本は精神科病院大国。世界の病床の二割が集中し、入院期間も他の先進国と比べ突出してい

ペリーさんの出演交渉は難航しました。本人は「もう引退している」と固辞しましたが、粘りに粘り、ウラジミールさんの動画を見もらったのです。それが彼の心を動かしたのだと思います。ウラジミールさんとペリーさんという同時代に

上がってきたのが滝山病院です。取材は内部告発をきっかけに始まりました。膨大な音声と映像、内部資料、そして弁護士が撮影した映像です。家族、病院、行政がこの病院を必要悪として求めていたこと、また、死亡退院の割合が8割近いにも関わらず、見て見ぬふりがされてきたこと、それぞれに対して取材を深めていきました。

原因は一つではありません。番組は反響を呼びましたが、取り巻く環境は改善しているとは言いがたい状況です。病院への強い行政処分はまだに行なわれず、滝山病院は今も稼働しています。入院患者は番組放送後から8月までの半年間で22名も亡くなりました。精神科病院の実情に少しでも多くの関心が寄せられ、状況が改善していくよう取材を続けていきたいと思います。

悪化が進む貧困状況

JCJ賞贈賞式 雨宮処凛さん講演

2006年、フリーター労組のメンバーデモで聞いた「生きさせろ！」の叫びから貧困問題にかかわり17年。当時、1600万人だった非正規雇用は、いまでは2100万人です。

コロナ禍で激増

07年に反貧困ネットワークが結成され翌年暮れの年越し派遣村に505人が来ましたが、うち女性5人。コロナ1年目の職を失った人の相談会

中高年から若年層へ女性の困窮も深刻化

中高年から若年層へ女性の困窮も深刻化

3年前立ち上げた「新型コロナ災害緊急アクション」という恒久的なネットワークには

これまでに2000件くらい、SOSが来ましたが、いまも来ています。相談者は10代から30代が6割です。派遣村の時と違



3年前立ち上げた「新型コロナ災害緊急アクション」という恒久的なネットワークにはこれまでに2000件くらい、SOSが来ましたが、いまも来ています。相談者は10代から30代が6割です。派遣村の時と違

もそれは一部の人だけ。今は不動産の契約も固定電話より携帯の番号を求められる。一度携帯が止まると元に戻れない。

生活保護を受けても、パートを始めるにも携帯が無いと不動産を契約できない。すると携帯を持ちたくても住所がなくて持てない。同じところをぐるぐる回っている。

この10数年の貧困報道は、表面に現れたものがブームになり、それが消費されて終わるという感じをうけます。17年も現場にいると、取材に来る人も代わっていく。もちろん継続的に取材をしている人もいますし、新人を連れてきて一から教えるような人もいますが、一般的に継続されていない。貧困報道がどんどん「貧困」になっている気がします。

独自の調査報道による作品と、継続的な取材を行ってきた作品がともに候補作に上がった。

●核攻撃被害まで想定しゼネコンと秘密会合
全国300自衛隊基地「強靱化」計画のスクープ
新聞赤旗は、全国の自衛隊基地強靱化計画の具体的な内容を内部文書とともに明らかにし、防衛

選べたが、この2作品も優秀作だった。「家庭内の性虐待」加害者である父との対峙S(TBS)は、父親からの性被害を告発した女性を実名で取り上げた。女性の願いに応えて父親が、カメラの前で向き合った、その双方の姿をとらえた。

●「からくり」政治家、富山、旧統一教会〜(チユーリップテレビ)は、安倍晋三元首相の事件直後に富山県内の統一教会の取材を開始、さらに富山県の政治家と教団の結びつきや選挙応援の実態を、怒りを込めた取材で作品にまとめ上げた。

編集部

川崎ヘイトスラップ訴訟

石橋記者高裁で勝訴

2019年の川崎市議選に立候補したヘイト候補(レイシスト)が神奈川新聞の石橋記者の複数の記事や発言を名誉棄損として訴えた訴訟の控訴審で、東京高裁は10月4日、一番の横浜地裁川

崎支部が、発言の一部に「不法行為が成立」として認定を取り消し、原告の請求を全面的に棄却した。

これで石橋記者がヘイトスピーチを批判した一連の記事と発言のすべて根絶まで終わらない。

「正当」であると法的に認められたことは「評価」できるが、もともと石橋記者への提訴は、報道の萎縮を狙ったスラップ訴訟。レイシストやヘイト団体との闘いはその根絶まで終わらない。

今回のJCJ賞には、新聞34点、出版46点、放送その他27点、計207点の応募の中から推薦委員会が新聞部門5作品、出版部門5作品、放送その他5作品の計15候補作を推薦。選考委員会がJCJ大賞1点、JCJ賞5点を選んだ。選考委員の上西充子・法政大教授の全体講評から最終候補作を紹介する。

【新聞部門】

独自の調査報道による作品と、継続的な取材を行ってきた作品がともに候補作に上がった。

●核攻撃被害まで想定しゼネコンと秘密会合
全国300自衛隊基地「強靱化」計画のスクープ
新聞赤旗は、全国の自衛隊基地強靱化計画の具体的な内容を内部文書とともに明らかにし、防衛

「私」ひとり新聞社
岩手県大槌町で生き、考え、伝える「菊地由貴子」は、東日本大震災による津波被害の大きかった大槌町に生まれた菊地さんが、一人で新聞社を立ち上げた経緯を記した作品。被災地域では地元の情報に乏しいという事情がよく分かった。

●「黒い海」船は突然、深海へ消えた(伊澤理江)は第54回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作。漁船はなぜ沈没したのか、その原因究明に乗り出した伊澤さんの取材力が、潜水艦のプロである当時の海上自衛隊の潜水艦隊司令官から重要なコメントを引き出した。

●「メディアは「貧困」をどう伝えたか」現場からの証言、年越し派遣村からコロナショックまで(水島宏明)は、ネットカフェ難民問題などをドキュメンタリー制作者として取り上げてきた水島さんが、リーマンショック期とコロナショック期の貧困問題の報道の動向を、データベースを用いて分析するとともに、公支援の現場や、支援団体にインタビューしてまとめた。貧困問題をテレビで伝える難しさ、報道関係者の活動への関わり方など、当事者のひとりであったからこそ聞き出した内容だ。

【放送・その他】

放送・その他部門から今年3点がJCJ賞に選ばれたが、この2作品も優秀作だった。「家庭内の性虐待」加害者である父との対峙S(TBS)は、父親からの性被害を告発した女性を実名で取り上げた。女性の願いに応えて父親が、カメラの前で向き合った、その双方の姿をとらえた。

●「からくり」政治家、富山、旧統一教会〜(チユーリップテレビ)は、安倍晋三元首相の事件直後に富山県内の統一教会の取材を開始、さらに富山県の政治家と教団の結びつきや選挙応援の実態を、怒りを込めた取材で作品にまとめ上げた。

編集部

国の代執行でも工事は不可能だ

いったい日本政府は沖縄を何だと思っているのか!!

辺野古新基地建設の設計変更を巡る沖縄県敗訴の最高裁判決を楯に、玉城デニー知事の国連出張中(9月19日)に「承認勧告」を送りつけ、1週間後に「承認指示」(10月4日期限)、それに知事が応じないと見るや、間髪を入れず翌5日、県に替わって国が「承認」を行うための代

執行訴訟を福岡高裁那覇支部に提起。しかも、第1回口頭弁論(10月30日予定)で即日結審するよう要求した。矢継ぎ早に、たたみかけるような政府のやり口は、沖縄を徹底的に潰してやると言わんばかりだ。

県民投票で明確に示された民意であり自らの公約でもある「新基地反対」と、行政の長としての法1最高裁判決の順守という二律背反に引き裂かれ、苦悩しつつも筋を通した知事の姿は県民の心に焼き付き、政府の攻撃の理不尽さをいっそう際立たせた。

知事が承認しないことが著しく公益を害する」といふ言葉は、そっくりそのままお返ししたい。7日に開催された辺野古ゲート前県民大行動には、そんな思いの県民900人が結集し、政府への抗議の怒りと「知事は民主主義の根幹を全うした。公益という言葉を大きく上げた」写真。

最高裁判決を厳しく批判し、代執行手続きの中止を求める声明(9月27

事という言葉の方が国際的に通用する」と語った。

国は年内の代執行↓軟弱地盤改良工事の着工を闇雲に急ぐが、徳田教授が言うように「国の政治判断が物理的に不可能なものをするには、着工前には、このバカげた工事を止められるチャンスだ。

政府に良識ある賢者はいないのだろうか...??

浦島悦子



「承認」を行うための代

「承認」を行うための代

JCJ沖縄が抗議声明

代執行提訴は不当

司法と政府の「共謀」批判

新基地承認

JCJ沖縄は16日、国が玉城デニー沖縄県知事に代わり辺野古新基地建設の設計変更を承認する代執行を求め、福岡高裁那覇支部に提訴したことに對し、緊急抗議声明を發した。声明全文はJCJホームページに掲載している。

また、それに先立ち14日、那覇市内で「世界情勢から見る新基地建設問題」をテーマに例会を開いた。沖縄国際大学特任教授(政治学)の佐藤学さんが講話。新基地建設は米軍を沖縄に日本に引き留め続ける手段とし、「日本は中国を前に米国にしがみつこうとしているが、果たしてそれで大丈夫なのか」と疑問を投げかけた。

建設の口実はこの間、冷戦構造、北朝鮮の脅威、台湾危機など変化してきたと指摘。一方、米内世論が新基地建設を後押ししているとした。

米国は対中国で空軍のローテーション配備と、海兵隊地上戦闘部隊の沖縄配備を進める。

「新基地がなくても日本の安全保障が成り立たないわけではないが、新基地建設を止められなければ沖縄が戦場になってしまうことを止められたい」と危惧した。

JCJ沖縄・編集部

「ジャーナニース事件」暴けなかったマスコミ

会社員化した記者とタテ割り組織の弊害

鮫島氏オンライン講演



ジャーナニース事件を浮上させる引き金になった英BBCの事件報道(3月)の取材に協力した元朝日新聞記者の政治ジャーナリスト・鮫島浩氏(写真)は、マスコミはなぜジャーナニース多川による少年への性加害を暴けなかったかを9月30日のJCJオンライン講演で語った。

BBCディレクターのメグミ・インマン氏の取材の狙いは2つだったと鮫島氏は解説した。①マスコミの芸能・文化部のジャーナニース担当記者らを取材しジャーナニース多川の性加害実態を浮き彫りにする。②事件を報じなかった日本のマスコミの閉鎖性と、上層部はどう向き合ってきたかを追求する。

鮫島氏は「①については性被害者への取材もできてジャーナニース多川の性加害事件をあぶり出せてきた。政治部、経済部、社会部など各部の領域を超えて取材。「強固なタテ割り組織に阻まれ突破するのは容易ではなかった」と(鮫島氏)。

タテ割り組織が事件を報じられなかった原因の一つと指摘した鮫島氏は「ジャーナニースは事務所にかかわった特別報道部(21年春に廃止)のデスクを12年から2年間ほど務めた。特別報道部の記者はどのクラブにも属さず埋もれた事実を掘り起こす調査報道が仕事だ。政治部、経済部、社会部など各部の領域を超えて取材。「強固なタテ割り組織に阻まれ突破するのは容易ではなかった」と(鮫島氏)。

「共犯性があると批判されたマスコミが信頼を回復するには自己検証し上層部を処分するというウミを出すべきだと鮫島氏は強調した。橋詰雅博

「分断にも至らぬ現実」「無関心層にどう伝える」

映画「国葬の日」 大島新監督語る



JCJオンライン講演会

安倍晋三首相の昨年9月27日の国葬から1年、10月3日に開いたJCJオンライン講座では、映画「国葬の日」の大島新(あらた)監督の「国葬」に映画製作から見えてきた日本の現実を語ってもらった。大島氏は「日本は大丈夫か」という思いを深くした」と、民主主義が機能していない状況に強い危機感を示した。

国葬が行われた日の国民の姿をリアルに捉えようと、全国10都市でカメラをまわした。取材したタクシー運転手が「デモをやっても遅いでしょ。国が決めたことだから」と説明した。デスク時代に「この事件を迫及すればよかった」と述べた。

原因の一つは記者の「会社員化」だ。「相手から抗議を受けそうな事案はさわらず、やりやすい問題をやって上司の評価を得た方がプラスになる」という、リスクを取らない会社員化した記者が社内にも蔓延している。これでは風穴を開ける調査報道は無理です(鮫島氏)。

中間層の人たちが多く、それは「いつも周囲の目を窺っている、自分で決めない、多数派に追随する流れになっている」ことが浮かび上がったという。

なので「分断にもならない」とみる。分断があるとするならば「賛成か反対かではなく、関心と無関心の間にある分断だ」と話した。

問題は「おかしなことをおかしいと言う声をあげても伝わっていない現状」を指摘、特に政権に反対しているリベラルの声を伝わっていない現実をもっと直視すべきだと強調する。例えばデモのプラカードの言葉も、「政治に無関心な人たちに伝える言葉がどういうものかを考える必要がある。立ち位置によって見えているものが違うのだから」と説明。この映画は「現状を認識するためにつくった」という。

映画を観た人の反響では、「反対を訴えて行動した人たちが大勢いたのに、なぜもっと取り上げられなかったのか」など、強く反対する人ほど、この映画に反発する人が多かった。

大島氏は「そういう皆さんにこそ今の現実を見ていただきたい」と話し、リベラルがもっと豊かな言葉で、無関心層など立場の違う人たちの対話を広げてほしいと期待を語った。映画は全国で上映中。鈴木賀津彦

おこわり5面連載の「フォトアングル」は8面に掲載しました。

増加している実態が明らかになっている。これまで政府が言ってきたマイナ保険証のメリットも怪しい。マイナカードによって正確な資格情報がありタイムで確認できないし、暗証番号を入手すればなりすまし受診は可能だ。

勝亦さんは報道機関の論調も「保険証存続」に傾き、自治体からも「見直し」の声が上がった現状に於いて、医療DXと呼ばれる医療分野における政府の狙いについて語った。そこではマイナカードを取得・利用させながらそれを義務化はせず、損害については利用者の自己責任とする。医療情報は健康や身体に関する機微にわたる個人情報であり、強引なデジタル化に「対抗する必要がある」と強調した。 保坂義久

だ。政治部、経済部、社会部など各部の領域を超えて取材。「強固なタテ割り組織に阻まれ突破するのは容易ではなかった」と(鮫島氏)。

タテ割り組織が事件を報じられなかった原因の一つと指摘した鮫島氏は「ジャーナニースは事務所にかかわった特別報道部(21年春に廃止)のデスクを12年から2年間ほど務めた。特別報道部の記者はどのクラブにも属さず埋もれた事実を掘り起こす調査報道が仕事だ。政治部、経済部、社会部など各部の領域を超えて取材。「強固なタテ割り組織に阻まれ突破するのは容易ではなかった」と(鮫島氏)。

原因の一つは記者の「会社員化」だ。「相手から抗議を受けそうな事案はさわらず、やりやすい問題をやって上司の評価を得た方がプラスになる」という、リスクを取らない会社員化した記者が社内にも蔓延している。これでは風穴を開ける調査報道は無理です(鮫島氏)。

共犯性があると批判されたマスコミが信頼を回復するには自己検証し上層部を処分するというウミを出すべきだと鮫島氏は強調した。 橋詰雅博



支部レポート

神奈川支部は10月7日、神奈川県保険医協会・事務局の勝亦琢磨さん(写真)を講師に迎え、「マイナ保険証」をテーマに横浜市内で例会を開いた。勝亦さんは最初に、健康保険証の役割や、政府の急激な保険証廃止の動きを説明した。

「マイナ保険証」とはマイナンバーカードを健康保険証として利用すること。カードに入っているICチップによってオンラインで資格確認をするシステムだ。

マイナンバーカードは2016年に発行されたが2020年4月時点で16%の普及にとどまっていた。医療機関でのオンライン資格確認システムは2021年10月に始まったが導入率は22年5月時点で19%。そのため政府は、国民向けにマイナポイントの支給、医療機関にはシステム導入の初期費用の支給という「アメ」と、24年秋までに保険証廃止と医療機関のオンライン認証システム原則義務化の「ムチ」による政策を打ち出した。

そして23年3月に「保険証廃止法案」を国会提出し、6月に成立させた。しかし5月中からマイナ保険証に他人の情報がつぶつけられるなどのト

反対しているリベラルの声を伝わっていない現実をもっと直視すべきだと強調する。例えばデモのプラカードの言葉も、「政治に無関心な人たちに伝える言葉がどういうものかを考える必要がある。立ち位置によって見えているものが違うのだから」と説明。この映画は「現状を認識するためにつくった」という。

映画を観た人の反響では、「反対を訴えて行動した人たちが大勢いたのに、なぜもっと取り上げられなかったのか」など、強く反対する人ほど、この映画に反発する人が多かった。

大島氏は「そういう皆さんにこそ今の現実を見ていただきたい」と話し、リベラルがもっと豊かな言葉で、無関心層など立場の違う人たちの対話を広げてほしいと期待を語った。映画は全国で上映中。鈴木賀津彦

おこわり5面連載の「フォトアングル」は8面に掲載しました。

増加している実態が明らかになっている。これまで政府が言ってきたマイナ保険証のメリットも怪しい。マイナカードによって正確な資格情報がありタイムで確認できないし、暗証番号を入手すればなりすまし受診は可能だ。

勝亦さんは報道機関の論調も「保険証存続」に傾き、自治体からも「見直し」の声が上がった現状に於いて、医療DXと呼ばれる医療分野における政府の狙いについて語った。そこではマイナカードを取得・利用させながらそれを義務化はせず、損害については利用者の自己責任とする。医療情報は健康や身体に関する機微にわたる個人情報であり、強引なデジタル化に「対抗する必要がある」と強調した。 保坂義久

マイナ保険証テーマに —神奈川支部— メリットも怪しい

闇バイト 凶悪化する若者のリアル

廣未登

新手法の犯罪を複眼的に分析・考察

本書は、自身も非行経験のある犯罪学者で、更生支援の担い手（保護司、更生保護施設職員など）という二つの顔を持つ著者が、闇バイトの実態とリスクについて当事者たち取材してまとめたものである。闇バイト

に巻き込まれていく大学生のフィクションから始まり、仕掛け人「半グレ」の横顔、実態と犯罪現場、リスクと真実、さらに闇バイトを生み出す社会構造等まで幅広い視点から複眼的に分析・考察している。

本書はマスコミ報道でイメーシシにくい、闇バイトの勧誘方法、一度関わると逮捕されるまで脅迫行為の内容など、現場の実態がイメーシシやすい。本書を手にとった読者は闇バイトに関わった人のリアルな展開に大いに興味を持って一気に

読破されるであろう。一方、本書は闇バイトに巻き込まれないための対策についても支援者及び当事者の証言を取り上げている。さらに銀行口座開設できなくなるなど、闇バイトに関わることと生じうる生活上のリスク、社会復帰の困

難性を指摘している。本書は、読者及び身近な人が闇バイトに巻き込まれることを防止する道標となることは間違いない。闇バイトに巻き込まれない、被害に遭わないための必読の書として、一般読者だけでなく、学校教育の関係者など全世代に一読いただきたいものである。（祥伝社新書930円）中村秀郷（西南学院大学准教授）



書評

本・BOOK・ほん

（価格は税別です）

年間4万人を銃で殺す国、アメリカ 矢部 武

終わらない「銃社会」の深層

「銃社会」米国に潜む不安と恐怖の病巣を抉る



奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

「国民が武器を所有し、携帯する権利はこれを侵してはならない」とする合衆国憲法修正第2条の存在は、よく知られたところだ。さらに米国最強のロビー団体「全米ライフル協会」が豊富な資金力を背景に政治家への強力なロビー活動を行っている。1994年の中間選挙では、銃規制法案に賛成した民主議員に対し、報復としての批判キャンペーンを大きく展開し、大量の落選者を出したエピソードを紹介している。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

こうした政治的な側面に加え、「個人の自由と権利、憲法などへの異常なほどの執着、こだわり」を持つ米国人の本質まで踏み込んだことだ。

米国の熟知した国際ジャーナリストである筆者の探求はそこにとどまらず、もともと心の中に不安や恐怖を抱えた人が多くいるという米国の姿も捉えている。さらに隣国メキシコからの移民が標的となった乱射事件の背景には、白人至上主義を擁護し活気づけたトランプ前大統領の存在があると指摘する。

被害者家族と加害者家族 死刑をめぐる対話 原田正治 松本麗華

「罪を償う」とは 新たな論点を提供する一冊



いく松本氏。被害者家族と加害者家族であることの垣根を超えて、ふたりは共感しあい理解し合う。まことに不思議な対話集になっている。

ことに、松本氏に科せられた過酷な人生は、読むだけでも切ない。ほとんど意思疎通ができない状態の父との面会。それでもなお、治療による回復によって、異界に彷徨う父の心を取り戻したいと願う娘の痛ましき。それを「死刑」によって断ち切られたことの悲哀。

「罪を償う」とはどういうことなのか。対話は最終的に、死刑制度そのものへの懐疑を抱卵して終わる。被害者家族と加害者家族の対話という稀有な小冊子が、新たな方向からの「死刑廃止論」を生んだと言えよう。（岩波ブックレット、630円）

徹底検証 沖縄密約 新文書から浮かぶ実像 藤田直央

返還交渉の真実とは 米国追従外交の原点に迫る



省も核密約を否定し続けしてきた。

筆者は密約に至る経緯を手書きで記した「若泉シナリオ」など5点の資料を入手する。同書から見えてくるのは、米国に追従し、国民に選択の材料として示すべき事実を隠す日本政府の姿だ。

2012年に米軍普天間飛行場に米軍の新型ヘリ・オスプレイが配備された際は、米側が数年前から表明していたにも関わらず日本政府は配備1カ月前まで知らぬ存ぜぬを通した。15年に米軍普天間飛行場の移設先である名護市辺野古の大浦湾側で軟弱地盤が見つかった際も4年間隠していた際も4年間隠していたとまがかない。

今、日本政府は大浦湾を埋め立てて、機能を強化した基地を造るために沖縄の反対を抑え込み、米軍と約束した「唯一の解決策」との一点張りでの強権を振るっている。

いまも続く、隠蔽と米追従を泉下の2人はどう見るのだろうか、と考えさせられる書だ。（朝日選書1500円）

人を動かすナラティブ なぜ、あの「語り」に感わされるのか 大治朋子

生きるヒントが得られる 「人生のマニュアル書」



といった日常の選択から「老後はどうなる?」という将来の不安も、すべて私のナラティブに従って生きているという。では私のナラティブはどこから生まれるのか。

その答えが本書に詰まっている。だから「人生のマニュアル書」なのだ。それだけではない。SNS時代になって私のナラティブが、無意識のうちにも他者に洗脳される危険性が大きくなっていくと警鐘を鳴らす。

デジタルデータなどの個人情報を使って、米大統領選などをコントロールしたとされるケンブリッジ・アナリティカへの取材は圧巻である。

また、報道におけるナラティブ・ジャーナリズムの可能性も提起している。その関連でニュースの本質を見抜く「本質主義」と個々のナラティブが現実をどう構成するかを問う「構成主義」のアプローチを指摘する。

特に「構成主義」にはマルティン・ブバーの『汝と我』にある「真の対話」の重要性を想起させる。その意味で本書は『希望の書』でもある。（毎日新聞出版2000円）城倉由光（前）「サンデー毎日」編集長

学校や教会といった市民生活の最も安心できるはずの場所で、凶弾が飛び交う。それが米国の日常となつて久しい。悲劇が繰り返されなくても、銃を手放せない米国人。毎年4万人もの命が銃で

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

奪われているという。本書はこの不可解な現実の原因を探りながら、現代の米国が抱える本質を解き明かしている。

映画の鏡

真のジャーナリズムを示す 「燃えあがる女性記者たち」

未来の可能性を開く報道の原点



©Black Ticket Films

ジャーナリズム問題などで日本のマスメディアの在り方が問われている今、メディアに関わる全ての人々にとって「必見」のドキュメンタリー映画だ。報道は「何のため

始める。社員全員が女性、彼女たちはスマーティフォンを片手に貧困やカーブ、ト、ジェンダーの差別や偏見と闘いながら、地域の生活

した方が欲しいメディアをわたしたちでつくる」と題して、前新聞労連委員長吉永磨美さんや中国新聞の金崎由美さんら女性ジャーナリストのトークイベント(主催は「燃えあがる女性記者たち」)

今年9月は記録的高温だった。「地球沸騰の時代」と言われ、温暖化対策は待たない。そんな中で、わが国では沖縄の辺野古新基地、リニア中央新幹線、明治神宮外苑再開発、大阪湾の夢洲開発など、旧態依然の大規模開発が実施・計画されている。夢洲開発の厳しい現実を焦点をあてれば、大阪湾の人工島・

夢洲は、廃棄物・土砂で埋め立てられ軟弱地盤だが、開発の嵐で今にも沈みそうだ。ここで2025年万博が予定されているが、開催まで1年半後というのに、準備が大幅に遅れている。その象徴が海外パビリオン建設の遅れだ。建設が始まった

準備への悪影響は必ず「だ」と問う。万博の開催準備が遅れているのに、その隣で大型工事を始めるのは、さすがに無謀である。万博開催の本気度も疑われる。

月間マスコミ批評

「読書の秋」である。今年、これまでに『資本主義の次に来る世界』(シエン・ヒッケル著、野中香方子訳)など、大きな視角から現代を問う本が次々と出版されている。豊作とい

2006年逝去)が2003年に発表した論文「ゼロ成長でも生活豊かな社会―21世紀資本主義の行方」を3回にわたり再掲載している。

山田明

出版

都留氏は、①世界人口の動態②資源や環境の制約条件③科学技術の進歩の三つを21世紀の資本主義の規定要因と考えた。かつては資本にとり「外

記者を指名しない「NGリスト」の存在がNHKのスクープで明らかになった。企業の「組織防衛が働いている」「日本の企業は抱える『ガバナ

調査報道の役割は、重みを増しており、働く人たちはメディアの活躍を願っている。(しんぶん

大阪万博 準備遅れと大幅経費増

政府主導で推進する意向を表明したが、果たして間に合うのか。

修正で2350億円になるという。東京五輪と同じような展開だ。朝日10月1日社説も「万博の経費増 国民にツケを回す」で撤退できる「解除権」を認め、夢洲の地盤

万博・カジノという夢が集まる。キャンブル後遺症に対する府民の不安は根強く、「カジノはあかん」の声がやまない。読売10月7日社説は、「大阪カジノ整備 万博

「燃えあがる女性記者たち」の記者たち。同社は2002年にタリト(カースト最下層の「不可触民」と呼ばれてきた人々)の女性たちによって週刊の新聞として

創刊。その後2016年にはSN SやYouTubeで発信をするデジタルメディアとして新しい挑戦を続けている。

沈下対策などで、事業者は最終決定を先延ばし。こんな曖昧な実施協定を認めた国の責任が問われる。地元では底なしの財政負担、不当な格安賃料について、大阪府を相手にした住民訴訟に注目

調査報告をする力もなくなれば、不正や内部統制の抜け穴など気にしないという経営幹部が多数いた結果、「沈黙」は起きただろう(『週刊エコノミスト』10月17日号)

編集部

メディア

気象台

初、番組はNHKのホームページで「悪魔のささや」

赤旗「9月7日付ほか」

反(優越的地位の乱用)にあたることを警告した。

公正取引委員会は21日、巨大IT企業が手掛けるニュースのポータルサイトの実態報告書を公表し、記事を配信している報道機関へ支払われる「許諾料」について、サイト運営会社によって最大5倍の開きがあることを明らかにした。公取委は、サイト運営会社側に「許諾料の算定方法を可能な限り開示することが望ましい」と提言し、著者への出演がゼロの可能性が

「燃えあがる女性記者たち」の記者たち。同社は2002年にタリト(カースト最下層の「不可触民」と呼ばれてきた人々)の女性たちによって週刊の新聞として

創刊。その後2016年にはSN SやYouTubeで発信をするデジタルメディアとして新しい挑戦を続けている。

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)が、NHKに対し、教団の信者勧誘の手口などを扱った番組「危険なささや」の放送中止と謝罪を求めて抗議した。NHKは教団側が問題視した番組のタイトルを一部変更し、予定通り放送した。教団が放送前の番組に中止を要求したのは異例で、識者はメディア側の萎縮を狙った可能性を指摘する。当初、番組はNHKのホームページで「悪魔のささや」

JCJ50周年記念書籍

デジタル版として復刻 89人執筆、多彩な個性と視点

JCJは2005年に創立50周年記念として『ジャーナリストとして生きる』証言をつづるJCJ50年の歩み・1955〜2005』を発行し、当時の会員に配布した。

JCJ会員、協力者、JCJ賞受賞者などにメ

ールやFAXなどで寄稿を依頼した。既に故人となっていた方々からは過去に発表された文章を選び、89人による91の文章が集まった。

それから18年、この本がデジタル版として復刻され、10月20日からJCJホームページで閲覧でき

ることとなった。91人が語った50年の歴史はそれぞれの個性と視点が集ったJCJの歴史と来し方が生き生きと目に浮かぶように感じられ、たまに確認などのためにちょっとページを開くと、年末大掃除の時に畳

の下に敷かれた新聞を讀んでしまうように、次々とページをめくってしま

う。

私編集後記にはこう書かれている。「今、大きく変化する社会の変化にJCJは追いついていない。JCJの行く末が見えないと感じ、そんな時はやはり来し方を確認することだと思った。進むべき道は見えているのに、立ちふさがる川の大き

き、山稜の険しさに戸惑っている。戦後の新しい局面を先陣方は、職場で街で多くの人々を巻き込んで創意と工夫で戦ってきた。来し方の戦いからヒントと力をいただいで、先輩にもあとひと踏ん張りしてもらって、JCJここにありと叫ぼう。

HPで閲覧可能

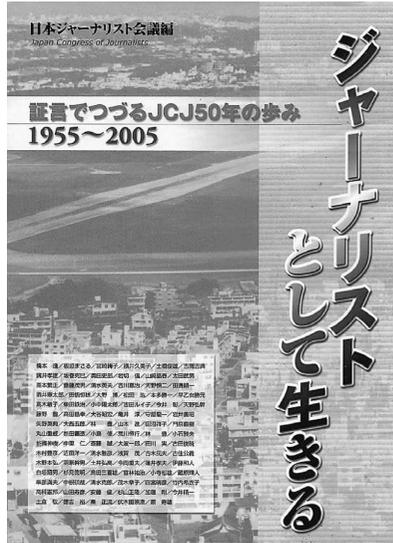
いまた私は同じことを思う。特にこの数年の日本の軍事化の動きはどうか。米軍基地は相変わらずなくなっても減っていかない。それどころか

再び戦争のために、ペン、カメラ、マイクを持たない」をスローガンとするJCJは、JCJと非JCJのホームページを「ご覧ください。」

川田マリ子

た。再びか三度か、た

た。だが、冗談ではない。同じ13日に議長



18年ぶりにデジタル版となった書籍の表紙



HPで閲覧可能

再び戦争のために、ペン、カメラ、マイクを持たない」をスローガンとするJCJは、JCJと非JCJのホームページを「ご覧ください。」

川田マリ子

た。だが、冗談ではない。同じ13日に議長

た。だが、冗談ではない。同じ13日に議長

ホームページを大幅リニューアル

https://jcj.gr.jp

JCJのホームページは従来、外部の方へお願いしてきた関係で時折まとめで更新という即応性に欠けるものでした。

また、三密回避からリアルな集まり等が抑制されたコロナ禍の進行はインターネットをどう味方に付けるか、大きな社会的課題となってきています。

そうした環境、とりわけ情報を取り巻く環境変化に適應すべく、昨春秋に大幅なホームページのリニューアルを実施致しました。写真右参照。

特にJCJ会員の皆さまに活用していただけるよう、これまで「JCJ会員ログイン」の表示がご覧になれますが、ここをクリックし登録することでバックナンバーの閲覧やダウンロードが可能になります。

また、ほぼ毎月開催されるオンライン講演会の記録動画も会員限定、無料でご覧いただけます。さらに、お見逃しの講演やシンポジウム動画にアクセス出来るようにしました。

ご不明な点はオンライン関連の問い合わせ先を設定しております。

jcj.online@jcj.gr.jp
まで、メールでご連絡下さい。



中国・広州、香港、台湾、韓国などアジア圏を中心とした人の交流を目的とする高円寺番外地と称するイベントが9月22日から10月1日まで、東京・高円寺周辺で開かれた。期間中に、ライブ、DJイベント、展示などで盛り上がる。最終日は全部に反対するアジア粗忽者一揆開催として高円寺中央公園に集合。トラック荷台で演奏しながらのバンドが先頭を切り、参加者が続いて行進。来年は台湾で開催。

＝10月1日、東京・杉並区で、酒井憲太郎撮影

編集部

旧統一教会に対する解散命令が13日、盛山文科相によって東京地裁に請求された。統一教会といえど即思い浮かぶのは霊感商法や高額な献金要求であり、その金銭トラブルで家庭崩壊に見舞われた被害者家族の恨みが、統一教会の広告塔安倍元首相銃撃死の遠因となったこともまだ、記憶に新しい。

だが、冗談ではない。同じ13日に議長

フォトアンタル

中国・広州、香港、台湾、韓国などアジア圏を中心とした人の交流を目的とする高円寺番外地と称するイベントが9月22日から10月1日まで、東京・高円寺周辺で開かれた。期間中に、ライブ、DJイベント、展示などで盛り上がる。最終日は全部に反対するアジア粗忽者一揆開催として高円寺中央公園に集合。トラック荷台で演奏しながらのバンドが先頭を切り、参加者が続いて行進。来年は台湾で開催。

＝10月1日、東京・杉並区で、酒井憲太郎撮影

編集部

だが、冗談ではない。同じ13日に議長